

株式の状況 (2021年9月30日現在)

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	20,111,598株
株主総数	3,686名
大株主	

株主名	持株数	持株比率
タイガー興産有限会社	1,965 千株	9.8 %
タイガース取引先持株会	1,607	8.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,237	6.2
株式会社三菱UFJ銀行	979	4.9
澤田 宏 治	888	4.4
株式会社京都銀行	776	3.9
T.P.C持株会	710	3.5
タイガースポリマー従業員持株会	557	2.8
澤田 裕 治	480	2.4
三井住友信託銀行株式会社	474	2.4

(注) 持株比率は自己株式 (106,139株) を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

個人・その他	8,729,335株 (43.4%)
金融機関	4,703,819株 (23.4%)
その他国内法人	4,906,605株 (24.4%)
外国人	1,387,213株 (6.9%)
証券会社	278,487株 (1.4%)
自己名義株式	106,139株 (0.5%)

会社の概要 (2021年9月30日現在)

商号	タイガースポリマー株式会社 TIGERS POLYMER CORPORATION
設立年月日	1948年12月20日
本店所在地	大阪府豊中市新千里東町一丁目4番1号
資本金	4,149,555,676円
従業員数	連結：2,102名 個別：575名
事業の内容	合成樹脂、ゴム及びそれらの複合資材をもとに、ホース、ゴムシート、成形品、その他金型などの製造販売

役員 (2021年9月30日現在)

代表取締役社長	澤田 宏 治
代表取締役会長	渡辺 健 太 郎
常務取締役	木戸 俊 明
常務取締役	植田 英 司
取締役	井上 宏 章
取締役(社外)	野尻 恭 一
取締役(社外)	河本 高 希
監査役	田村 洋 一
監査役(社外)	大川 治
監査役(社外)	釜 中 利 仁

株主メモ / ホームページのご案内

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定める日
定時株主総会	毎年6月開催
公告方法	電子公告 https://tigers.jp/ ただし、電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京証券代行株式会社 東京都千代田区神田錦町三丁目11番地
郵便物送付先・連絡先	〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 東京証券代行株式会社 事務センター ☎0120-49-7009 ※取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
住所変更・単元未満株式の買取・買増等のお申出先	お取引口座のある証券会社にお申し出ください。ただし、特別口座に記録された株式に係る各種手続につきましては、特別口座の口座管理機関である東京証券代行株式会社にお申し出ください。
未支払配当金のお支払い	株主名簿管理人である東京証券代行株式会社にお申し出ください。

WEBサイト

<https://tigers.jp/>



証券コード: 4231

第80期 中間報告書

2021年4月1日から2021年9月30日まで

株主・投資家の皆さまへ

TOP MESSAGE



代表取締役社長 澤田 宏治
代表取締役会長 渡辺 健太郎

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、第80期中間報告書(2021年4月1日から2021年9月30日まで)をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

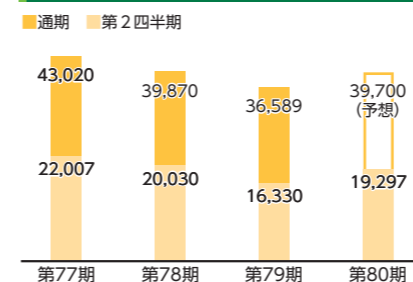
当第2四半期連結累計期間の経済情勢は、国内では新型コロナウイルス感染症の影響によるインバウンド需要の減少が継続しており、また、国内外で原材料価格の上昇や半導体不足、物流の混乱によるサプライチェーンへの影響が生じる等で依然として厳しい経営環境が続きました。

このような環境の下、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、前年同四半期はロックダウンによる長期間の操業停止の影響を受けておりその反動により、売上高19,297百万円(前年同四半期比2,967百万円18.2%増加)、営業利益533百万円(前年同四半期は営業損失151百万円)、経常利益647百万円(前年同四半期は経常損失74百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益214百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失301百万円)となりました。

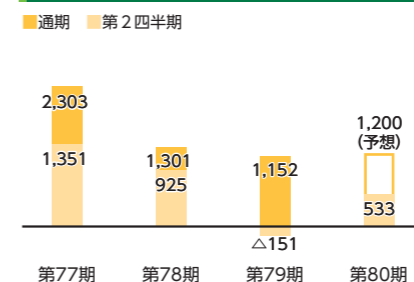
なお、中間配当金につきましては、1株につき5円とさせていただきます。株主の皆さまにおかれましては、今後ともより一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2021年12月

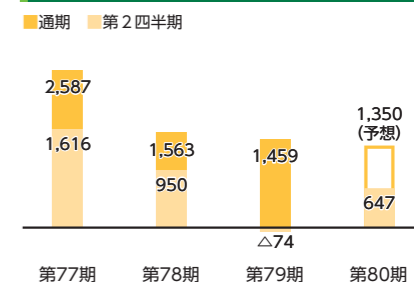
売上高 (百万円)



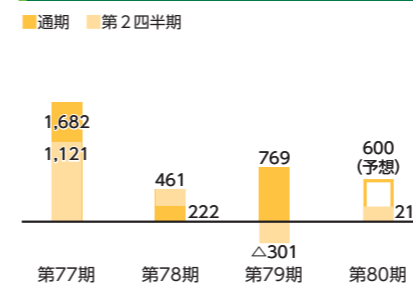
営業利益又は営業損失 (百万円)



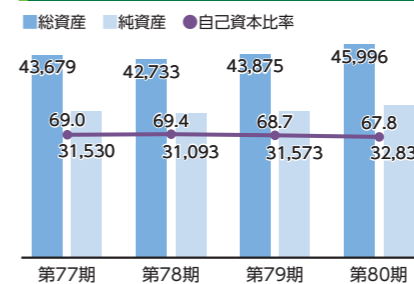
経常利益又は経常損失 (百万円)



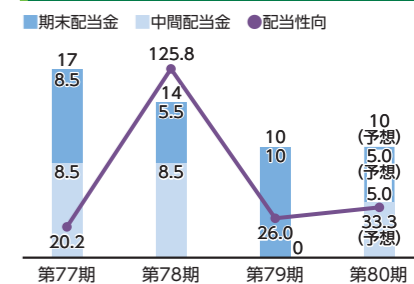
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は純損失 (百万円)



総資産 (百万円)・純資産 (百万円)・自己資本比率 (%)



配当金 (円)・配当性向 (%)

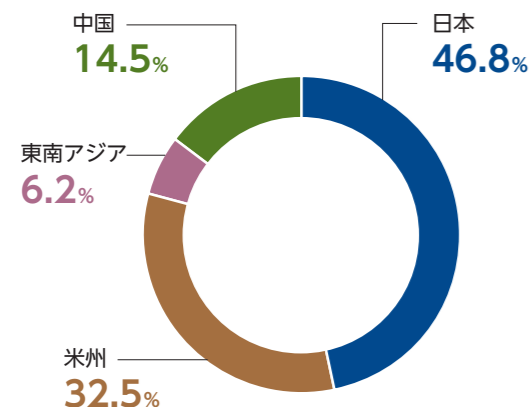


日本

自動車部品の販売は減少しましたが、産業用ホース・家電用ホース・ゴムシートの販売が増加し、売上高は9,847百万円（前年同四半期比230百万円2.4%増加）となりました。販売増加が減価償却費等の増加を吸収して、営業利益は272百万円（前年同四半期比112百万円69.9%増加）となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等の適用により、得意先から有償で支給される部品・原材料について、売上高と売上原価の総額表示から売上高の減額表示に変更したことにより、売上高と売上原価がそれぞれ458百万円減少しております。

売上高構成比



米州

米国では、自動車部品は、前年同四半期のロックダウンによる長期間の操業停止の反動で販売が増加し、増収・増益となりました。産業用ホースも、前年同四半期の販売減少の反動により、増収・増益となりました。メキシコの自動車部品は、為替換算上の影響により増収となりましたが、諸経費が増加し減益となりました。その結果、売上高は6,837百万円（前年同四半期比2,279百万円50.0%増加）、営業損失は39百万円（前年同四半期は営業損失480百万円）となりました。

東南アジア

タイでは、自動車部品の国内販売・米州向け販売の増加と経費削減等により、増収・増益となりました。マレーシアでは、家電用ホースの販売は増加しましたが材料費、人件費等が増加し、増収・減益となりました。その結果、売上高は1,299百万円（前年同四半期比108百万円9.1%増加）、営業利益は57百万円（前年同四半期比53百万円1,235.9%増加）となりました。

中国

自動車部品・家電用ホースともに販売が増加したことに加え、為替換算上の影響により、売上高は3,038百万円（前年同四半期比698百万円29.9%増加）となりました。増収及び原価改善効果等により、営業利益は198百万円（前年同四半期比53百万円37.2%増加）となりました。

（注）地域別の売上高及び営業損益は、地域間取引消去前のものです。

トピックス

メディルチューブは、理化学から一般工業用に及ぶ広い範囲で使えるエラストマーチューブのシリーズとして上市しました。オレフィン系エラストマー3種、塩ビ系エラストマー1種、フッ素系1種の合計5種を揃えております。耐久性、耐薬品性、透明性に優れたもの、有害ガスが出にくく環境に配慮したものがあり、認知度が高まっています。



ホース部門では、高気密・高断熱性を備えた住宅向けや半導体設備・一般工場向け設備用ホースの販売が回復しており、土木分野では、政府の国土強靱化計画に対応すべく、自然災害による被災地の復興にも貢献しています。また、防災意識の高まりによる補修や補強工事が積極的に進められ、様々な要求に応じたホースが好調です。

グローバルな生産・供給体制を構築

タイガースポリマーグループでは、国内外に生産拠点・販売拠点・開発拠点を展開し、日本国内の事業所及び国内・海外の子会社との有機的なネットワークを形成することにより、グローバルな生産・供給体制を構築しています。

- 01 本社
- 02 東京支店
- 03 名古屋支店
- 04 大阪支店
- 05 広島支店
- 06 福岡支店
- 07 栃木工場
- 08 静岡工場
- 09 岡山工場
- 10 開発研究所
- 11 購買部
- 12 Tigerflex Corporation (米国)
- 13 Tigerpoly Manufacturing, Inc. (米国)
- 14 Tigerpoly Industria de Mexico S.A. de C.V. (メキシコ)
- 15 Tigerpoly (Thailand) Ltd. (タイ国)
- 16 Tigers Polymer (Malaysia) Sdn. Bhd. (マレーシア)
- 17 杭州泰賀塑化有限公司 (中国)
- 18 広州泰賀塑化有限公司 (中国)
- 19 武庫川化成株式会社 (兵庫県)
- 20 高槻化成株式会社 (大阪府)
- 21 タイガース工販株式会社 (兵庫県)

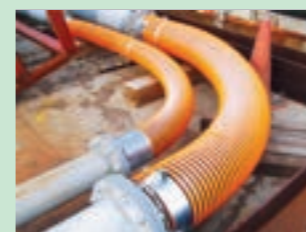


研究・開発

独自性の高い新製品の提供で、市場ニーズを先取り持続可能な社会へ貢献

当社は、開発体制の強化を最重要課題として、技術開発に力を注いでいます。ゴム・樹脂製品を開発するための基本技術を全て自社で保有しているため、開発スピードが速く、独自性の強い新製品を常に提供することで市場から高い評価を得ています。また、当社は開発した製品の性能解析能力についても高い評価をいただいております。自動車メーカーからの信頼も高く、様々な部品を提供しております。

新技術を用いた電動車用部品や産業用ホース、理化学用・食品用チューブ、インフラ向けゴムシートといった製品の開発を通じ、市場ニーズを先取りするだけでなく、持続可能な社会に貢献できる製品の研究開発に挑戦し続けています。



産業用ホース

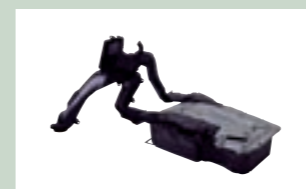


理化学用・食品用チューブ



ゴムシート

電動車用部品



バッテリー冷却システム



エキスパンションタンク



FCV用エアクリーナー